

単元別指導計画表マニュアル Ver. I

令和2年2月

長崎県立佐世保特別支援学校

目 次

- 単元別指導計画表を作成する意図・目的について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

- 佐世保特別支援学校のカリキュラム・マネジメントとは・・・・・・・・ P 1～2

- 単元別指導計画表、各項目の解説・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3～4

- 単元別指導計画表（項目説明）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5～6

- 参考資料 1：「各教科における見方・考え方」

- 参考資料 2：【卒業後の目指す姿」と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

○単元別指導計画表を作成する意図・目的について

新学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」の実施及び実現をめざして、指導内容を整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れて授業改善を継続させ、育成を目指す資質・能力を着実に育成するため、単元別指導計画表を作成する。

単元別指導計画表を作成・実施することは、教育活動の質を向上させる授業改善の好循環を生み、維持させることであり、カリキュラム・マネジメントを行う上で重要な役割がある。カリキュラム・マネジメントの視点としては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点に留意する必要がある。進めていく際には各教科等の指導に当たって、①「知識及び技能」が習得されるようにすること。②「思考力、判断力、表現力等」を育成すること。③「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。その際、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ることが求められる。単元別指導計画表を作成・運用していくことは、授業改善や個別の指導計画、年間指導計画に反映するため、まさにカリキュラム・マネジメントであると言える。

○佐世保特別支援学校のカリキュラム・マネジメントとは

(カリキュラム・マネジメント推進委員会から)

① 「よりよい（共生）社会（創り）につながる教育課程」

⇒社会と学校が目標を共有できる

<誰もが暮らしやすく自分の役割を果たす喜びが実感できる社会創りに貢献する教育課程>

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくことが重要。

② 「豊かな人生（創り）につながる教育課程」

⇒社会（世界）に向き合い人生を切り拓くための資質・能力を育む教育課程

<社会に向き合い自分らしい豊かな人生を送るための資質・能力を育成する教育課程>

これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくことが重要。

③ （今と未来の）地域社会につながる教育課程

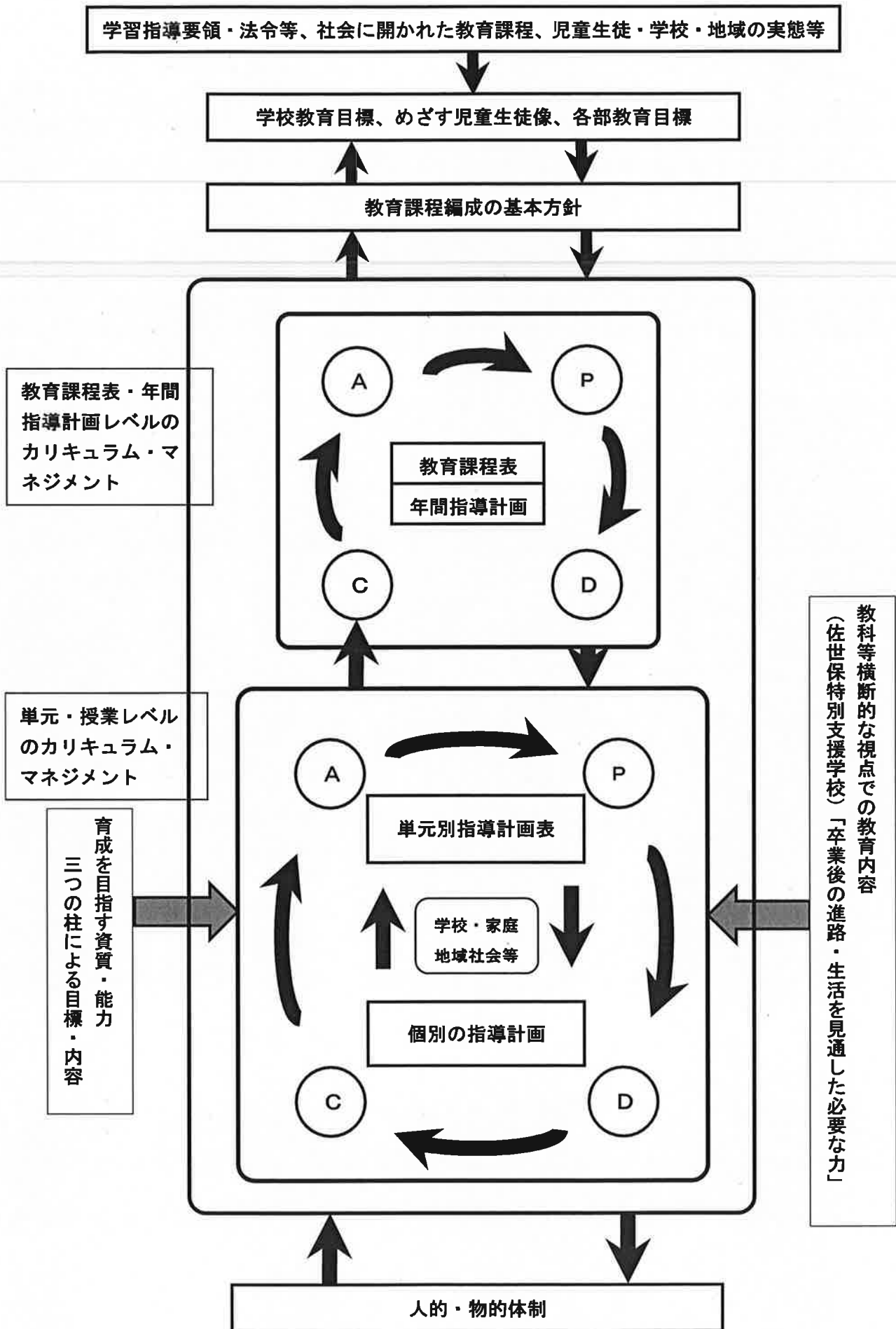
⇒地域社会（人的・物的資源等）との連携により学校教育の目標実現を目指す教育課程

<社会とつながる教育課程（社会と直接的・間接的につながりながら上記①②を実現する教育課程）>

教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させることが重要である。

※単元別指導計画表を作成することで、次年度に向けた授業改善、年間指導計画の改善につながる。また、個別の教育指導計画等、教育課程全体に波及し、好循環を生み出すことこそが、結果的に教育課程全体の改善につながる。（＝カリキュラム・マネジメント）

佐世保特別支援学校のカリキュラム・マネジメント（概念図 Ver. 2）



○各項目の解説

| 項目 | 解説 |
|---|---|
| 各部段階で育てたい力 | <ul style="list-style-type: none"> ・各単元で育つ力を「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」一覧表の各部段階より選んで転記する。この際、児童生徒の発達年齢に即した力の段階ではなく、生活年齢に即した段階で設定するようにする。 (児童・生徒が実際の年齢に基づく育てたい力を記入する) ※「育てたい力」は、具体的な学習内容には含まず、「この単元は本校のこの力を付ける要素を含んでいる。」程度に留め、手立て等には含めないこととする。 <「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」の各部門の成り立ちについて> ・【あたご部門】高等部段階で卒業後に必要な育みたい力を教員で出し合い、「一般就労」「福祉的就労」「生活介護」に分類し、平成30年度の研究企画会において、教育支援部、進路指導部においてわかす部門の「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」Ⅲ課程の一覧表を基に作成した。(小中、高の2枚構成) ・【わかす部門】高等部卒業後に目指す姿を本校の「目指す児童生徒像」より各類型で設定。その姿に近付くために必要な力を教員・保護者・児童生徒それぞれの立場で出し合い、各部経営目標の6項目で分類し、小中高の各部段階に振り分けた。また、平成28～29年度研究において、先行研究の内容の見直しや卒業後の利用する期間の意向を踏まえ再整理した。名称を「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」一覧表にした。(Ⅰ・Ⅱ課程、Ⅲ課程、Ⅳ課程の3枚構成) |
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・育成すべき資質・能力の三つの柱、「知識・技能」、「思考力・判断力」、「学びに向かう力、人間性等」ごとに単元目標を設定する。各教科等の内容を参考に、相応しい文言に修正して記入する。→令和元年度までは、内容をそのまま転記していたが、令和2年度からは単元の活動内容を踏まえたより具体的な目標を書くようにする。 ・その際、どの内容から設定したのかを明確にするため、段階と記号を記入する。 |
| 見方・考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の意図を説明し、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を記入する。 ・「見方・考え方」については、添付している資料を参考に記入する。 ※児童生徒の実態に応じた段階で設定するのではなく、各部段階の「見方・考え方」の資料を基に設定する。 ・教科等を合わせた指導(生活単元学習等)については、どの教科と関連があるか検討し、各教科の視点からも記入する。 |
| 題材について ○学習内容 ○学習活動(育成すべき資質・能力の三つの柱) | <ul style="list-style-type: none"> ・単元とは複数の題材を系統的に組織したまとまりである。 ・題材とは学習指導の内容を構成するまとまりとして、学習指導の目標や内容を組織付けた指導の単位である。 ・指導内容とは、学習指導要領の知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の内容の段階を基に、児童生徒の知的障害の状態や経験に応じて具体的に示したものである。(特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 P65参照) ・学習内容とは、指導内容を子どもの視点に立って書き表したものである。 ・学習活動とは、主語が児童生徒となるような書き方で活動を記入する。 例えば、(児童生徒が)「教師の読み聞かせを聞く」「感想文を書く」「感想文を発表する」「(〇〇について)話し合う」等 |

| | |
|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の活動の意図を的確に捉えるため、各活動の語尾に、育成すべき資質・能力の三つの柱より記入する。(活動によっては、複数の資質・能力が該当する場合も考えられる。) 例えば、教師の読み聞かせを聞く。(知識・技能) 場面ごとの自分のせりふを言う。(思考力、判断力、表現力)等 |
| ○手立て、指導上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・「○」は学習活動のねらいと手立てについて記入する。 ・「・」は指導上の配慮について記入する。(平成29年度作成の「自閉症スタンダード」などを参考に、障害特性を踏まえたかかわりや場の設定などを記入する。) <p>あくまでも単元における指導計画表のため、指導案のような個別の合理的配慮(教材等の配慮、支援)については記入しない。(個別の配慮点については、「個別の指導計画」を活用する。)</p> |
| ○教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の授業者が分かりやすいように、どの教材を使ったのか具体的に記入する。教材の場所などを記入するとより分かりやすい。 |
| 単元評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から評価規準を示す。「何が身に付いたのか。」単元終了後の目指す児童生徒の姿を記入する。 |
| 次年度に向けて ○指導時数、指導時期 ○見方・考え方 ○目標、評価、学習内容、手立て ○教材 ○育てたい力 | <ul style="list-style-type: none"> ・本欄は、単元全体を振り返り、効果的であった部分や課題を明らかにし、次年度の授業改善に生かす、教師の授業反省の欄である。 ・どの項目の改善が必要なのか、各項目について(◎○△)の記号で分かりやすく評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ◎：できた。十分達成できた。 ○：概ねできた。または、概ね達成できた。 △：改善点がある。 ・○や△のように改善点がある場合、何が課題でどのように改善すればよいのかを具体的に記入する。「指導時数、指導時期」や単元そのものの見直しについては、年度内に「年間指導計画」へ反映させる。 ・「見方・考え方」については、実際に授業を実践することでその内容が適切であったかを確認する。 ・「目標、評価、学習内容、手立て」については、単元に含まれる教科内容が適切だったか、授業の課題や改善点について具体的に記入する。 ・教材について、作成した教材があれば、どのような教材なのかの資料を添付することで明らかにし、引き継ぐようにする。 ・「育てたい力」の欄には、一覧表で設定した力を育てる単元であったか。また、一覧表の他の力は育たなかったのかを検討し、記入する。 |
| <作成する上での留意事項～全体を通して～> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の授業者が授業をする上で、見通しがもてやすいよう書き方は具体的且つ簡潔に記入する。 | |

単元別指導計画表（具体例）

| 国語科指導計画表 | | 単元名 | 【劇をしよう】 | 指導時期 | (10)月～(11)月 |
|-----------------|---|--|---|------|--|
| 単元計画 (全15時間) | ①「お話を聞こう」(2時間) 10/15,18 ②「せりふを言ってみよう」(8時間) 10/23,25,29,11/1,5,7,8,12 ③役になりまろう(5時間) 11/14,15,19,21,22 | 中学 部段階で育てたい力 | | | |
| 単元目標 | 知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力、人間性等 | 身な大人や友達とのやり取りを通して言葉には事柄の内容を表す動きや、経験したことを伝える動きがあることに気づくことができる。(中学部1段階7-7) 文章を読んでわかったことを伝えたり、感想をもったりすることができる。(中学部1段階0-1) 物語文を読んだり、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。(中学部1段階0-1) 物語文を読んだり、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。(中学部1段階0-1) 文章を読んでわかったことを伝えたり、感想をもったりすることができる。(中学部1段階0-1) | | | |
| 見方・考え方 | 新しく出会う「にっこに」「びっくり」などの言葉や、その言葉の表す意味やその言葉と動きの関係性、その言葉と動きの関係性を意味付けられること。 【学習内容】「泣いた赤鬼」の話を聞く ○教師の読み聞かせを聞く。(知識・技能) ○物語の中に、「にっこに」「びっくり」などの言葉があることを知る。(知識・技能) | | 【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮事項 ○登場人物や話について知るために、「泣いた赤鬼」「泣いた赤鬼」のイラストを提示し、「泣いた赤鬼はどれかな?」と問い、登場人物をイメージさせる。 ○物語に出てくる言葉に興味や関心をもつために、「にっこに」「びっくり」などを抑揚を付けて読むことと言葉のリズムや面白さに気付かせる。 ○イラストなどを使用して場面ごとに読む。 ・「にっこに」「びっくり」などの言葉を大きな文字や赤文字で提示して見やすくしておく。 | | 【教材】 ・「泣いた赤鬼」の手作り ・大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ト ・言葉カード ・登場人物の人形 |
| 題材①② | 【学習内容】「せりふを言う」 ○教師の読み聞かせを聞く。(知識・技能) ○場面ごとの自分のせりふを言う。(思考力、判断力、表現力) | | 【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮事項 ○前時に提示した登場人物の人形を用いながら、「この人形はだれ?」と尋ねたり、人形を動かして「今何をしている?」と尋ねたりすることで、登場人物や動きを表す言葉を選び出させる。 ・登場人物のお面を提示し、自分のやりたい役柄を選択させる。 ○場面に出現する新しい言葉や自分が発する言葉を知るために、大型絵本を使用し、言う言葉を確認して表示した人形、言う前に生徒の前で顔写真や指さしながら、問を置いたりして自分の配役や発する言葉に気付かせる。 ・せりふの頭に配役の生徒の顔写真を貼っておく。 ○言葉を書いたイラストを見せたり、そのジェスチャーを提示することで、せりふを読んだり、教師の読み聞かせを模倣したり、言葉に合わせた動きを模倣したりする。 ・マイクを用いることで大きな声を出させる。 | | 【教材】 ・「泣いた赤鬼」の手作り ・大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ト ・言葉を書いたイラスト ・登場人物の人形とお面 ・マイク(玩具) |
| 題材③⑤ | 【学習内容】「役のせりふを言う」 ○役柄やせりふを確認する。(知識・技能) ○場面ごとの自分のせりふを言う。(学びに向かう力、人間性等) | | 【手立て、指導上の留意点等】○活動のねらいと手立て・配慮事項 ○登場人物の人形を用いながら、「この人形はだれ?」と尋ねたり、人形を動かして「どうやって動いている?」「どうやって動いたか?」と尋ねたりすることで、登場人物や動きを表す言葉を選び出させる。 ○せりふを言うことに困った生徒がいた場合は、言葉を書いたイラストを見せたり、そのジェスチャーを提示することでせりふや動きを思い出させる。 | | 【教材】 ・「泣いた赤鬼」の手作り ・大型絵本 ・様々な表情の赤鬼のイラスト ト ・言葉を書いたイラスト ・登場人物の人形とお面 ・マイク(玩具) |
| 単元評価 | 知識・技能 ○「にっこに」「びっくり」などを使用する場面において、文章やイラストを見てこれらの言葉や、配役同士で向き合ったり、抑揚を付けて言ったり、身体の動きや表情で表わしたりすることができたか。 | 思考・判断・表現 ○言葉や言葉を書いたイラストを見せたり、そのジェスチャーを提示することで、せりふを言うことができたり、その言葉に合った動きを思い出したりすることができたか。 | 主体的に学習に取り組む態度 ○登場人物に関する教材を用いながら、「これは誰だった?」「これは誰だった?」と尋ねたり、教材を動かして「どうやって動いたか?」「どうやって動いたか?」と尋ねたりすることで、登場人物や動きを表す言葉を書いたイラストを見せたり、そのジェスチャーを提示することでせりふや動きを思い出させる。 | | |
| 次年度に向けて | 項目 評価(◎○△) | 指導時期 ◎ | 次年度への課題 | | |
| | 見方・考え方 ◎ | | | | |
| | 目標、評価規準、学習内容、手立て △ | | | | |
| | 教材、場の設定 △ | | | | |
| | 育てたい力 ◎ | | | | |

各教科等における見方・考え方

| 教科 | 見方・考え方 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|------------|-------------------------|---|---|------|
| 国語 | 言葉による見方・考え方 | 児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること (解説p.11) | 生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること (解説p.11) | |
| 社会 | 社会的事象の見方・考え方 | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して(視点)、社会的な事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること(方法) (解説p.19) | | |
| | 社会的事象の見方・考え方 (地理的分野) | | 社会的な事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて (解説p.7) | |
| | 社会的事象の見方・考え方 (歴史的分野) | | 社会的な事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして (解説p.7) | |
| | 現代社会の見方・考え方 (公民的分野) | | 社会的な事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて (解説p.7) | |
| 算数 数学 | 数学的な見方・考え方 | 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること (解説p.22) | 事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること (解説p.21) | |
| 理科 | 理科の見方・考え方 | 【見方】 「エネルギー」を柱とする領域では、主として量的・関係的な視点で捉えること 「粒子」を柱とする領域では、主として質的・実体的な視点で捉えること 「生命」を柱とする領域では、主として多様性と共通性の視点で捉えること 「地球」を柱とする領域では、主として時間的・空間的な視点で捉えること 【考え方】 「比較する」とは、複数の自然の事物・現象を対応させ比べること 「関係付ける」とは、自然の事物・現象を様々な視点から結び付けること 「条件を制御する」とは、自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因について、どの要因が影響を与えるかを調べる際に、変化させる要因と変化させない要因を区別するということ 「多面的に考える」とは、自然の事物・現象を複数の側面から考えること (解説p.13) | 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること (解説p.12) | |
| 生活 | 身近な生活に関わる見方・考え方 | 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事 (解説p.10) | | |
| 音楽 | 音楽的な見方・考え方 | 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること (解説p.10) | 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること (解説p.10) | |
| 図画工作 美術 | 造形的な見方・考え方 | 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと (解説p.11) | 表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと (解説p.10) | |

| 教科 | 見方・考え方 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|---------------|---------------------------------------|--|---|------|
| 家庭 技術・家庭 | 生活の営みに係 る見方・考え方 | 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること (解説p.11) | 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること (解説p.60) | |
| | 技術の見方・考 え方 | | 生活や社会における事象を、技術との関わり の視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負 荷や経済性などに着目して技術を最適化するこ と (解説p.19) | |
| 体育 保健体育 | 体育の見方・考 え方 | 運動やスポーツを、その価値や特性に着目し て、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす 役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた 『する・みる・支える・知る』の多様な関わり 方と関連付けること (解説p.19) | 運動やスポーツを、その価値や特性に着目し て、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす 役割の視 点から捉え、自己の適性等に応じた『する・み る・支える・知る』の多様な関わり方と関連付 けること (解説p.25) | |
| | 保健の見方・考 え方 | | 個人及び社会生活における課題や情報を、健康 や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾 病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を 支える環境づくりと関連付けること (解説p.25) | |
| 外国語 外国語活動 | 外国語によるコ ミュニケーショ ンにおける見 方・考え方 | 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背 景にある文化を、社会や世界、他者との関わり に着目して捉え、コミュニケーションを行う目 的や場面、状況等に応じて、情報を整理しなが ら考えなどを形成し、再構築すること (解説p.9) | 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背 景にある文化を、社会や世界、他者との関わり に着目して捉え、コミュニケーションを行う目 的や場面、状況等に応じて、情報を整理しなが ら考えなどを形成し、再構築すること (解説p.10) | |
| 特別の教科 道徳 | | | | |
| 総合的な 学習の時間 | 探究的な見方・ 考え方 | 各教科等における見方・考え方を総合的に活用 して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉 え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生 き方を問い続けるという総合的な学習の時間の 特質に応じた見方・考え方 (解説p.10) | 各教科等における見方・考え方を総合的に活用 して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉 え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生 き方を問い続けるという総合的な学習の時間の 特質に応じた見方・考え方 (解説p.10) | |
| 特別活動 | 集団や社会の形 成者としての見 方・考え方 | 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせなが ら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよ い人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や 社会への参画及び自己の実 現に向けた実践に結び付けること (解説p.13) | 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせなが ら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよ い人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や 社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結 び付けること (解説p.13) | |

知的障害教育部門における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

| 本校の目指す姿 | | |
|--|--|--|
| 知的障害教育部門の目指す姿 | | |
| | 児童生徒 | 児童生徒 |
| A 健康でたくましく生きぬく児童生徒 小 菜しう身体を動かし、運動する喜びを味わうとともに、心身の健康的な生活習慣（規則正しい生活）を身に付ける。 | B 思いやりのある心豊かな児童生徒 小 周りの人やものへの関心を高め、豊かにかかわる力を身に付ける。 | C 自立と社会参加を目指し、努力を続ける児童生徒 小 身の回りのことをできるだけ自分でしようとする態度を養うとともに身辺処理能力を高める。また、遊びや学習、生活体験を積み重ね、興味関心を広げるとともに、集団生活での簡単な決まりを守る態度を身に付ける。 |
| 中 力いっぱい身体を動かす経験をし、運動機能や体力の向上を目指すとともに自分の健康、安全への関心を高める中で、心身の健康的な生活習慣を身に付ける。 高 健康安全への関心を高めるとともに、進んで運動に取り組み、自ら体力向上や健康管理に努める態度を身につける中で、心身の健康的な生活習慣を確立する。 | 中 集団生活に必要な基本的な決まりを守り、相手を思いやる態度を養うとともに、仲間と協力して活動する力を身に付ける。 高 自分を尊重する態度を養うとともに、集団生活のマナーを守り、周りの人と協調・協力をしながら生活する態度を身に付ける。 | 中 できることは自分でする態度を培い、日常生活に必要な身辺処理能力の向上や基本的な生活習慣の定着を目指す。また、働くことや自立することの大切さを学ぶことで、地域や社会の中で心豊かな生活をしようとする態度を身に付ける。 高 基本的な生活習慣の確立を目指し、今できることを日常生活の様々な場面でもできるように、自らの生活をより豊かにしようとする態度を身に付ける。また、働くことや自立するための知識や技能を学ぶとともに、個々の課題に主体的に取り組み自ら考え判断する力を培い、課題解決に向けて努力する態度を身に付ける。 |

| 各学段段階 | | |
|--|--|--|
| 必要な力の項目 | 小学部段階で必要な力 | 中学部段階で必要な力 |
| ①健康に関すること・身体を動かすこと ア心身の健康 イ運動・体力 | ア体調不良や不快感（暑さ、寒さ、痛み、かゆみ等）を周囲の人に伝える。 イ簡単な遊びや運動が行える体力がある。 | ア自分から健康を意識して対応する。 イ一定量の運動や作業が行える体力がある。 |
| ②他者とのかわり ア状況に応じた挨拶 返事、言葉遣い イ意思の伝達 ウ集団への参加 エ他者理解 | ア丁寧な言葉を使って話す。 アその場にかかわしい行動をとる。 イ日常生活の中で、身近な人に自分の気持ちを伝える。 ウ周りの人と一緒に仲良く活動する。 エ自分や友達の良いところに気付く。 エ自分から挨拶をしたり、友達を遊びに誘ったりする。 | ア簡単な敬語を使って話す。 ア時と場に応じて適切な態度で対応する。 イいろいろな場面において、自分にとって必要な要求や意思を伝える。 ウ集団における役割を理解し協力して取り組む。 エ自分と友達の長所や短所が分かり、互いに認め合う。 エ友達が困っていたら手助けをしたり、頑張っている友達を励ましたりする。 |
| ③基本的な生活習慣 ア食事 イ排せつ ウ清潔 エ更衣 オ身の回りの整理 | 自分に合った方法で、日常生活の動作ができる。 ア食事（準備、挨拶、食具の操作、食事のマナー、食事内容、後片付け、配膳、感謝など） イ排せつ（用意・便意の意思表示、トイレの開閉、便器の使い方（小便器・洋式便器）、紙を取って拭く、衣服の上げ下ろし、水を流す、手洗いなど） ウ清潔（手洗い、洗面、うがい、歯みがき、手・口を拭く、鼻をかむ、整髪、爪を切る、髪剃り、衣服の交換など） エ更衣（靴・衣服の選択・着脱、袖口・襟元・裾を整える、衣服をたたむ、衣類の調節、TPOに合わせた服装など） オ身の回りの整理（荷物の整理・提出、教室内外の清掃、ロッカーの整理整頓など） | ア自分の障害やその特性について知っている。 イ周りの人に相談したり依頼したりする。 ウ継続して物事に取り組む。 ウ未経験なことや苦手なことに挑戦し、やり遂げようと努力する。 |
| ④課題解決 ア自己理解 イ問題解決力 ウ課題に向かう態度 | ア自分の苦手・得意なところを知っている。 イ家族や教師に依頼する。 ウいろいろなことに挑戦し、前向きに取り組む。 ウ未経験なことや苦手なことに挑戦する。 | |
| ⑤基礎基本の定着、教科学習 ア学習に向かう態度 イ基礎学力の定着 | ア自分の学習課題が分かり、取り組む。 イ生活の中で活用できる読み書き計算をする。 イ生活の中で活用できる技能を身に付ける。 | |
| ⑥進路 ア働くことの意味 イ進路選択・職業理解 ウ社会のルールの理解 エ作業や活動への集中 オ趣味や余暇の過ごし方 | ア保活動や手伝い等、自分の役割を果たし、その喜びを感じる。 イ学校や家庭以外の生活の場があることを知り、慣れる。 ウいろいろな仕事があることに気付く。 ウ学校のきまりや身近な人の指示を守る。 エ作業や活動に集中して取り組む。 オ休時間や休日、自分の好きなことをして過ごす。 | ア労働と報酬の関係を知る。 ア製品を買ってもらう喜びを感じる。 イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、いろいろな進路があることを知る。 ウきまりや指示を理解して行動し、分らないときは聞く。 エ決められた時間、集中して取り組む。 オ興味のある活動、趣味などを見つけ、一人又は数人で楽しむ。 |

知的障害教育部門における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覽表

| 本校の目指す姿 | | |
|--|--|--|
| 知的障害教育部門の目指す姿 | | |
| <p>A 健康でたくましく生きぬく児童生徒</p> <p>小 楽しく身体を動かして、運動する喜びを味わうとともに、心身の健康的な生活習慣（規則正しい生活）を身に付ける。</p> <p>中 力いっぱい身体を動かす経験をし、運動機能や体力の向上を目指すとともに自分の健康、安全への関心を高める中で、心身の健康的な生活習慣を身に付ける。</p> <p>高 健康安全への関心を高めるとともに、進んで運動に取り組み、自ら体力向上や健康管理に努める態度を身につける中で、心身の健康的な生活習慣を確立する。</p> | <p>B 思いやりのある心豊かな児童生徒</p> <p>小 周りの人やものへの関心を高め、豊かにかかわる力を身に付ける。</p> <p>中 集団生活に必要な基本的な決まりを守り、相手を思いやる態度を養うとともに、仲間と協力して活動する力を身に付ける。</p> <p>高 自分を尊重する態度を養うとともに、集団生活のマナーを守り、周りの人と協調・協力をしながら生活する態度を身に付ける。</p> | <p>C 自立と社会参加を目指し、努力を続ける児童生徒</p> <p>小 身の回りのことをできるだけ自分で行おうとする態度を養うとともに、身体能力を高める。また、遊びや学習、生活体験を積み重ね、興味関心を広げるとともに、集団生活での簡単な決まりを守る態度を身に付ける。</p> <p>中 できることは自分でやる態度を培い、日常生活に必要な身体処理能力の向上や基本的な生活習慣の定着を目指す。また、働くことや自立することの大切さを学ぶことで、地域や社会の中で心豊かな生活をしようとする態度を身に付ける。</p> <p>高 基本的な生活習慣の確立を目指し、今できることを日常生活の様々な場面でもできるように、自らの生活をより豊かにしようとする態度を身に付ける。また、働くことや自立するための知識や技能を学ぶとともに、個々の課題に主体的に取り組み自ら考え判断する力を培い、課題解決に向けて努力する態度を身に付ける。</p> |

| 各学部段階 | | 高学部段階で必要な力 | |
|--|---|---|---|
| 必要な力の項目 | 生活コース | 総合コース | 職業コース |
| <p>①健康に関すること・身体を動かすこと</p> <p>ア心身の健康</p> <p>イ運動・体力</p> <p>②他者とのかわり</p> <p>ア状況に応じた挨拶 返事、言葉遣い</p> <p>イ意思の伝達</p> <p>ウ集団への参加</p> <p>エ他者理解</p> <p>③基本的な生活習慣</p> <p>ア食事</p> <p>イ掛せつ</p> <p>ウ清潔</p> <p>エ更衣</p> <p>オ身の回りの整理</p> | <p>ア健康を保持するための支援を受け入れる。</p> <p>イ外で元気に活動できる体力がある。</p> <p>ア自分に合った方法で、声掛けに対して反応する。</p> <p>ア自分の順番がくるまで静かに待つ。</p> <p>イいろいろな人に対して自分の意思や気持ちを表情や発声、身振りなどで表す。</p> <p>ウ集団の中でも落ち着いて過ごす。</p> <p>エ安心できる人に自分から要求する。</p> <p>自分に合った方法で、日常生活の動作ができる。</p> | <p>ア健康を保持するための方法を知り、適切に行動する。</p> <p>イ持続的な運動や作業が行える体力がある。(6時間作業ができる体力)</p> <p>ア丁寧な言葉や敬語を使って話す。</p> <p>アその場におさわし行動や態度をとる。</p> <p>イ日常生活の中で、いろいろな人に自分にとって必要な要求や意思を伝える。</p> <p>ウ周りの人と一緒に、仲良くする。</p> <p>エ周囲の人と自分から関わりをもち、仲良くする。</p> | <p>ア常々自分から健康を意識して対処する。</p> <p>イ持続的な運動や作業が行える体力がある。(8時間作業ができる体力)</p> <p>ア相手や状況に応じた言葉遣いをする。</p> <p>ア他の立場をわきまえて適切な態度で対応する。</p> <p>イいろいろな場面において、必要な要求や意思を適切に伝える。</p> <p>ウ集団（チーム）の一員として役割を最後までやり遂げる。</p> <p>エ相手の立場に立って物事を考え行動する。</p> |
| <p>④課題解決力</p> <p>ア自己理解</p> <p>イ問題解決力</p> <p>ウ課題に向かう態度</p> | <p>ア自分の苦手・得意なところがある。</p> <p>イ必要な支援を依頼する。</p> <p>ウいろいろなことへの挑戦を受け入れ、取り組む。</p> <p>ウ未経験なことや苦手なことに挑戦する。</p> <p>ア自分の学習課題が分かり、取り組む。</p> <p>イ簡単な指示を理解する。</p> <p>イ生活の中で活用できる技能を身に付ける。</p> | <p>ア自分の苦手・得意なところを知り、受け入れ、相手に伝える。</p> <p>イ支援が必要かを判断し、必要に応じて依頼する。</p> <p>ウ意欲的に挑戦を受け入れ、継続して物事に取り組む。</p> <p>ウ未経験なことや苦手なことに挑戦し、やり遂げようと努力する。</p> | <p>ア自分の障害やその特性について理解し克服をする意欲がある。</p> <p>イ状況に合った解決手段（福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。</p> <p>ウ自分が今すべきことを適切に判断し、継続して取り組む。</p> <p>ウ状況に応じた目標設定ができ、意欲的に取り組む。</p> |
| <p>⑤基礎基本の定着 教科学習</p> <p>ア学習に向かう態度</p> <p>イ基礎学力の定着</p> | <p>ア自分の学習課題が分かり、取り組む。</p> <p>イ簡単な指示を理解する。</p> <p>イ生活の中で活用できる技能を身に付ける。</p> <p>ア係活動や手伝い等、自分の役割を果たす。</p> <p>イ学校や家庭以外の生活の場があることを知り、慣れる。</p> | <p>ア指示を理解し、適切に行動する。</p> <p>ア労働と報酬の関係を知る。</p> <p>イ現場実習を通し、様々な職業に関心をもち、自分が就きたい進路を選ぶ。</p> | <p>イ生活・仕事の状況に合わせて学びの知識を活用する。</p> <p>ア働くことの意味（報酬と社会貢献）を知り、その喜びを感じる。</p> <p>イ現場実習を通し、様々な職業に関心をもち、自己の適性や条件に合った適切な進路（職業）を選択する。</p> <p>ウ社会のルールやマナーを理解し、素直な行動をする。</p> <p>エ決められた時間、主体的に集中して取り組む。</p> <p>オ趣味や余暇を見つめ、余暇や休日を有効に過ごす。</p> |
| <p>⑥進路</p> <p>ア働くことの意味</p> <p>イ進路選択・職業理解</p> <p>ウ社会のルールを理解</p> <p>エ作業や活動への集中</p> <p>オ趣味や余暇の過ごし方</p> | <p>ア働くことの意味</p> <p>イ進路選択・職業理解</p> <p>ウ社会のルールを理解</p> <p>エ作業や活動への集中</p> <p>オ趣味や余暇の過ごし方</p> | <p>ア働くことの意味</p> <p>イ進路選択・職業理解</p> <p>ウ社会のルールを理解</p> <p>エ作業や活動への集中</p> <p>オ趣味や余暇の過ごし方</p> | <p>ア働くことの意味</p> <p>イ進路選択・職業理解</p> <p>ウ社会のルールを理解</p> <p>エ作業や活動への集中</p> <p>オ趣味や余暇の過ごし方</p> |

Ⅲ課程における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

| 必要な力の項目 | 各阶段階 | 小学阶段階で必要な力 | 中学阶段階で必要な力 | 高等阶段階で必要な力 |
|---|---|---|--|--|
| ①健康に関すること・身体を動かすこと ア心身の健康 イ姿勢と運動・動作 | ア体調に応じた挨拶、返事、言葉遣い | ア体調不良や不快感(暑さ、寒さ、痛み、かゆみ等)を周囲の人に伝える。 イ姿勢と運動・動作(座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作)の基本的技能を高める。 イ姿勢と運動・動作(座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作)の補助的手段を活用する。 イ身体的機能の制限を補う自らに適した技能を身に付ける。 | ア自分から健康を意識して対処できる。 | ア常に自分から健康を意識して対処できる。 |
| | ②他者とのかかわり | ア丁寧な言葉を使って話すことができる。 アその場におさわしい行動をとることができる。 イ日常生活の中で、身近な人に自分の気持ちを伝えることができる。 ウ周りの人と一緒に仲良く活動できる。 エ自分や友達の良いところに気付く。 エ自分から挨拶をしたり、友達を遊びに誘ったりする。 | ア簡単な敬語を使って話すことができる。 ア時と場に応じて適切な態度で対応する。 イいろいろな場面において、自分にとって必要な要求や意思を伝えることができる。 ウ集団における役割を理解し協力して取り組む。 エ自分と友達の長所や短所が分かり、互いに認め合う。 エ友達が困っていたら手助けをしたり、頑張っている友達を励ましたりする。 | ア相手や状況に応じた言葉遣いができる。 ア自他の立場をわきまえて適切な態度で対応する。 イいろいろな場面において、必要な要求や意思を適切に伝えることができる。 ウ集団(チーム)の一員として役割を最後までやり遂げる。 エ相手の立場に立って物事を考え行動する。 |
| ③基本的生活習慣 | ア食事 イ排せつ ウ清潔 エ更衣 オ身の回りの整理 | ア自分に合った方法で、日常生活の動作ができる。 ア食事(準備、挨拶、食具の操作、食事マナー)イ排せつ(用意、便意の意思表示、トイレの開閉、清潔(手洗いや洗面、うがい、歯みがき、手、口を拭く、鼻をかむ、整髪、爪を切る、髪削り、衣服の交換など)エ更衣(靴、衣服の選択・着脱、袖口・襟元・裾を整える、衣服をたたむ、身だしなみ、衣服の調節など)オ身の回りの整理(荷物の整理・提出、教室内外の清掃など) | ア自分の履きやその特性について知っている。 イ周りの人に相談したり依頼したりする。 ウ継続して物事に取り組む。 ウ自分の生活を見通しをもち、自分がすべきことが分かる。 | イ状況に合った解決手段(人、福祉機関)を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ自分の生活を見通しをもち、計画的に行動する。 |
| ④課題解決力 | ア自己理解 イ問題解決力 ウ課題に向かう態度 | ア自分の苦手・得意なところを知っている。 イ家族や教師に依頼する。 ウいろいろなことに挑戦し、前向きに取り組む。 ウ自分の生活を見通しをもち。(一月、一週間) | ア自分の課題が分かり、取り組むことができる。 イ生活の中で活用できる読み書き計算ができる。 イ生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。 | ア働くことの意義(報酬と社会貢献)を知り、その喜びを感じる。 イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、自己の適性に合った適切な進路を選択する。(福祉的従事、生活介護、福祉サービス) |
| ⑤基礎基本の定着、教科学習 | ア学習に向かう態度 イ基礎学力の定着 | ア自分の学習課題が分かり、取り組むことができる。 イ生活の中で活用できる読み書き計算ができる。 イ生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。 | ア労働と報酬の関係を知る。 ア製品を買ってもらった喜びを感じる。 イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、いろいろな進路があることを知る。 | ア働くことの意義(報酬と社会貢献)を知り、その喜びを感じる。 イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、自己の適性に合った適切な進路を選択する。(福祉的従事、生活介護、福祉サービス) |
| ⑥進路 | ア働くことの意義 イ進路選択・職業理解 | ア孫活動や手伝い等、自分の役割を果たし、その喜びを感じる。 イ学校や家庭以外の生活の場があることを知り、慣れる。 イいろいろな仕事があることに気付く。 ウ学校のきままりや身近な人の指示を守る。 エ作業や活動に集中して取り組む。 オ休憩時間や休日に、自分の好きなことをして過ごす。 | ウきままりや指示を理解して行動し、分からないときは聞くことができる。 エ決められた時間、集中して取り組む。 オ興味のある活動、趣味などを見つける。 | ア働くことの意義(報酬と社会貢献)を知り、その喜びを感じる。 イ社会体験を通し、様々な職業に関心をもち、自己の適性に合った適切な進路を選択する。(福祉的従事、生活介護、福祉サービス) |
| オ趣味や余暇の過ごし方 | ウ社会のルールを理解 エ作業や活動への集中 オ趣味や余暇の過ごし方 | ウ学校のきままりや身近な人の指示を守る。 エ作業や活動に集中して取り組む。 オ休憩時間や休日に、自分の好きなことをして過ごす。 | ウきままりや指示を理解して行動し、分からないときは聞くことができる。 エ決められた時間、集中して取り組む。 オ興味のある活動、趣味などを見つける。 | ウ社会のルールやマナーを理解し、行動する。 エ決められた時間、主体的に集中して取り組む。 オ趣味を見つけ、余暇や休日を有効に過ごす。 |

| 本校の目指す児童生徒像 |
|--|
| Ⅲ課程の目指す姿 |
| A 健康でたくましく、生きぬく児童生徒 |
| 1 食事、排泄、着替えなどの生活に必要な習慣を身に付け、規則正しい生活をしている。 |
| 2 すすんで身体を動かす活動に参加し、身体機能や体力を維持して生活している。 |
| B 思いやりのある心豊かな児童生徒 |
| 1 自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちや立場を考えたりして、周りの人たちと協力して生活している。 |
| 2 興味のあることや好きなことを見つけたら、自ら楽しく生活している。 |
| C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒 |
| 1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。 |
| 2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。 |

IV課程における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

| 必要な力の項目 | 各段階 | 小学部段階で必要な力 | 中学部段階で必要な力 | 高等部段階で必要な力 |
|--|-----------------------------------|--|--|--|
| ①健康に関すること・身体を動かすこと ア心身の健康 | ア姿勢と運動、動作 | ア睡眠、食事、排せつといった生活リズムに慣れる。 ア教師の支援を受けながら、良好な呼吸状態や、体温を保つ。 ア体調の好不調を何らかの形で表現することができる。 ア様々な方法で身体を動かし、体力をつける。 ア自分で、もしくは支援を受けて、目的をもつて姿勢を要えたり保持したりすることを身に付ける。 ア自分で、もしくは支援を受けて、目的をもつて移動することを身に付ける。 | ア睡眠、食事、排せつといった生活のリズムを身に付ける。 ア安定した健康状態を保つ。 | |
| | | | | |
| ②人やものとのかかわり ア環境の変化への対応 イ意思の表出 | ウかかわりの受容 エ集団への参加 オ興味や関心の広がり | ア環境の変化に気づく。 ア特定の人や身近な教師に対して、自分の意思や気持ちを表情や発声、身ぶりなどで表すことができる。 ア特定の人や身近な教師の働き掛けに対して、イントネーションや身ぶり、表情の変化などを受け入れることができる。 エ集団での活動に慣れる。 オ人やものへの注意を向け、興味を示す。 | ア環境の変化を受け入れる。 ア友達やいろいろな教師に対して、自分の意思や気持ちを表情や発声、身ぶりなどで表すことができる。 ア友達やいろいろな教師の働き掛けに対して、イントネーションや身ぶり、表情の変化などを受け入れることができる。 エ集団での活動に参加する。 オいろいろな人やものへの注意を向け、興味や関心があるものを増やす。 | ア環境の変化に対応できる。 アいろいろな人に対して自分の意思や気持ちを表情や発声、身ぶりなどで表すことができる。 アいろいろな人の働き掛けに対して、イントネーションや身ぶり、表情の変化などを受け入れることができる。 エ集団での生活を送ることができる。 |
| | | | | |
| ③基本的な生活習慣 ア食事 イ排せつ | ウ身の回りのこと | ア特定の人や身近な教師の支援を受け入れて、一定量食へることができ。 イ排せつに気付いて表情、発声、身ぶりで表すことができる。 ウ支援を受け入れて、自分なりに応じながら身の回りのことができる。 | アいろいろな教師と自分に合った食事を一定時間内で食へることができ。 イ排せつしたことを自分なりの方法で知らせることができる。 ウ支援を受け入れ、協力動作を身に付けて身の回りのことができる。 | アいろいろな人と自分のできる方法で食事ができる。 イ排せつの意思を知らせることができる。 |
| | | | | |
| ④課題解決力 ア要求 | イ自発的な行動 ウ選択 | ア特定の人や身近な教師に、要求を伝えることができる。 イ自分でしたいことを、できるだけ自分でやろうとする。 ウ視線や発声、手の動きなどでやりたいことを二つの物から選ぶことができる。 | ア友達やいろいろな教師に、要求を伝えることができる。 ウ視線や発声、手の動きなどでやりたいことをいくつもの選択肢から選ぶことができる。 | アいろいろな人に、要求を伝えることができる。 |
| | | | | |
| ⑤進路 ア力の発揮 イ地域の人々とのふれ合い ウ趣味と遊び | ア学習に向かう姿勢 ア学習の見通し イ学習の受け入れ | ア声掛けや姿勢変換、場所移動などから、学習の始まりと終わりに気付くことができる。 アいろいろな学習を体験し、受け入れることができる。 | ア声掛けや姿勢変換、場所移動などから、次の学習に気付く、期待することができる。 | アいろいろな学習に興味・関心をもって取り組むことができる。 |
| | | ア特定の場面で、力を発揮することができる。 イ支援を受けながら、買い物などに出掛け、お店の人や地域の人とふれ合う。 アいろいろな学習を経験する中で興味のあることと好きなことを見つける。 | アいろいろな場面で、力を発揮することができる。 イ見守りや支援を受けながら、地域の人々とふれ合うことに慣れる。 ウ興味のあることと好きなことを増やし、楽しみをもって生活する。 | ア地域の人など、いろいろな人とふれ合うことを楽しむ。 |

| 本校の目指す児童生徒像 |
|---|
| IV課程の目指す姿 |
| A 健康でたくましく、生きぬく児童生徒 |
| 1 食事、排せつ、睡眠などの生活リズムが整い、健康に過ごしている。 |
| 2 毎日、身近な人と身体を動かす機会をもつことで、体力を維持して生活している。 |
| B 思いやりのある心豊かな児童生徒 |
| 1 家族や周囲の人とのかかわりを受け入れ、いろいろな方法で自分の気持ちを伝えていく。 |
| 2 興味のあることや好きなことなどがあり、楽しみをもって生活している。 |
| C 自立し社会に参加・貢献しようとする児童生徒 |
| 1 いろいろな人と触れ合いながら、集団生活を送ったり、地域の活動などに参加したりしている。 |

Ⅲ 課程における【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

| 必要な力の項目 | 各都道府県 | 小学段階で必要な力 | 中学段階で必要な力 | 高等部段階で必要な力 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 |
|--|--|--|---|---|--|
| ①健康に関すること・身体を動かすこと ア 心身の健康 イ 姿勢と運動・動作 | 小学段階で必要な力 ア 体調不良や不快感（暑さ、寒さ、痛み、かゆみ等）を周囲の人に伝える。 イ 姿勢と運動・動作（座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作）の基本的技能を高める。 イ 姿勢と運動・動作（座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作）の補助的手段を活用する。 イ 身体的機能の制限を補う自らに適した技能を身に付ける。 | 小学段階で必要な力 ア 体調不良や不快感（暑さ、寒さ、痛み、かゆみ等）を周囲の人に伝える。 イ 姿勢と運動・動作（座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作）の基本的技能を高める。 イ 姿勢と運動・動作（座位、立位、歩行、姿勢変換、手指操作）の補助的手段を活用する。 イ 身体的機能の制限を補う自らに適した技能を身に付ける。 | 中学段階で必要な力 ア 自分から健康を意識して対処できる。 | 高等部段階で必要な力 ア 常に自分から健康を意識して対処できる。 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 A 健康でたくましく、生きぬく児童生徒 1 食事、排泄、着替えなどの生活に必要な習慣を身に付け、規則正しい生活をしている。 2 すんで身体を動かす活動に参加し、身体機能や体力を維持して生活している。 |
| ②他者とのかかわり ア 状況に応じた挨拶、返事、言葉遣い イ 意思の伝達 ウ 集団への参加 エ 他者理解 | 小学段階で必要な力 ア その場にふさわしい行動をとることができる。 イ 日常生活の中で、身近な人に自分の気持ちを伝えることができる。 ウ 周りの人と一緒に仲良く活動できる。 エ 自分や友達の良いところに気付く。 エ 自分から挨拶をしたり、友達を遊びに誘ったりする。 | 小学段階で必要な力 ア 簡単な言葉を使って話すことができる。 ア 時と場に応じて適切な態度で対応する。 イ いろいろな場面において、自分にとって必要な要求や意思を伝えることができる。 ウ 集団における役割を理解し協力して取り組む。 エ 自分と友達の長所や短所が分かり、互いに認め合う。 エ 友達が困っていたら手助けをしたり、頑張っている友達を励ましたりする。 | 中学段階で必要な力 ア 簡単な敬語を使って話すことができる。 イ いろいろな場面において、自分にとって必要な要求や意思を伝えることができる。 ウ 集団における役割を理解し協力して取り組む。 エ 自分と友達の長所や短所が分かり、互いに認め合う。 エ 友達が困っていたら手助けをしたり、頑張っている友達を励ましたりする。 | 高等部段階で必要な力 ア 相手や状況に応じた言葉遣いができる。 ア 他人の立場をわきまえて適切な態度で対応する。 イ いろいろな場面において、必要な要求や意思を適切に伝えることができる。 ウ 集団（チーム）の一員として役割を最後までやり遂げる。 エ 相手の立場に立つて物事を考え行動する。 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 B 思いやりのある心豊かな児童生徒 1 自分の気持ちを伝えたり相手への気持ちや立場を考えたりして、周りの人々と協力して生活している。 2 興味のあることや好きなことを見つけて、自ら楽しく生活している。 C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒 1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。 2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。 |
| ③ 基本的な生活習慣 ア 食事 イ 排せつ ウ 清潔 エ 更衣 オ 身の回りの整理 | 小学段階で必要な力 ア 食事（準備、挨拶、食具の操作、食事のマナー、イ 排せつ（尿意・便意の意思表示、トイレの閉閉、便器の使い方） ウ 清潔（手洗い、洗面、うがい、歯みがき、手・口を拭く、鼻をかむ、髪を切る、衣服の交換など） エ 更衣（靴・衣服の選択・着脱、袖口・襟元・裾を整える、衣類のたたむ、身だしなみ、衣服の調節など） オ 身の回りの整理（荷物の整理・提出、教室内外の清掃など） | 小学段階で必要な力 ア 食事（準備、挨拶、食具の操作、食事のマナー、イ 排せつ（尿意・便意の意思表示、トイレの閉閉、便器の使い方） ウ 清潔（手洗い、洗面、うがい、歯みがき、手・口を拭く、鼻をかむ、髪を切る、衣服の交換など） エ 更衣（靴・衣服の選択・着脱、袖口・襟元・裾を整える、衣類のたたむ、身だしなみ、衣服の調節など） オ 身の回りの整理（荷物の整理・提出、教室内外の清掃など） | 中学段階で必要な力 ア 自分から健康を意識して対処できる。 イ 周囲の人に相談したり依頼したりする。 ウ 継続して物事に取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもち、自分がすべきことが分かる。 | 高等部段階で必要な力 ア 状況に合った解決手段（人、福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ 自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもち、計画的に行動する。 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒 1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。 2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。 |
| ④ 課題解決力 ア 自己理解 イ 問題解決力 ウ 課題に向かう態度 | 小学段階で必要な力 ア 自分の苦手・得意なところを知っている。 イ 家族や教師に依頼する。 ウ いろいろなことに挑戦し、前向きに取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもつ。（一日、一週間） | 小学段階で必要な力 ア 自分の苦手・得意なところを知っている。 イ 家族や教師に依頼する。 ウ いろいろなことに挑戦し、前向きに取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもつ。（一日、一週間） | 中学段階で必要な力 ア 周囲の人に相談したり依頼したりする。 ウ 継続して物事に取り組む。 ウ 自分がすべきことが分かる。 | 高等部段階で必要な力 ア 状況に合った解決手段（人、福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ 自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもち、計画的に行動する。 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒 1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。 2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。 |
| ⑤ 基礎的な定着、教科学習 ア 学習に向かう態度 イ 基礎学力の定着 | 小学段階で必要な力 ア 自分の学習課題が分かり、取り組むことができる。 イ 生活の中で活用できる読み書き計算ができる。 イ 生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。 | 小学段階で必要な力 ア 自分の学習課題が分かり、取り組むことができる。 イ 生活の中で活用できる読み書き計算ができる。 イ 生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。 | 中学段階で必要な力 ア 周囲の人に相談したり依頼したりする。 ウ 継続して物事に取り組む。 ウ 自分がすべきことが分かる。 | 高等部段階で必要な力 ア 状況に合った解決手段（人、福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ 自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもち、計画的に行動する。 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒 1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。 2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。 |
| ⑥ 進路 ア 働くことへの意識 イ 進路選択・職業理解 | 小学段階で必要な力 ア 保護者や手伝い等、自分の役割を果たし、その喜びを感じる。 イ 学校や家庭以外の生活の場があることを知り、慣れる。 イ いろいろな仕事があることに気付く。 ウ 学校のきまりや身近な人の指示を守る。 エ 作業や活動に集中して取り組む。 オ 休憩時間や休日に、自分の好きなことをして過ごす。 | 小学段階で必要な力 ア 保護者や手伝い等、自分の役割を果たし、その喜びを感じる。 イ 学校や家庭以外の生活の場があることを知り、慣れる。 イ いろいろな仕事があることに気付く。 ウ 学校のきまりや身近な人の指示を守る。 エ 作業や活動に集中して取り組む。 オ 休憩時間や休日に、自分の好きなことをして過ごす。 | 中学段階で必要な力 ア 周囲の人に相談したり依頼したりする。 ウ 継続して物事に取り組む。 ウ 自分がすべきことが分かる。 | 高等部段階で必要な力 ア 状況に合った解決手段（人、福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ 自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもち、計画的に行動する。 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒 1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。 2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。 |
| ウ 社会のルール理解 エ 作業や活動への集中 オ 趣味や余暇の過ごし方 | 小学段階で必要な力 ア 労働と報酬の関係を知る。 ア 製品を買ってもらった喜びを感じる。 イ 社会体験を通して、様々な職業に関心をもち、いろいろな進路があることを知る。 ウ きまりや指示を理解して行動し、分らないときは聞くことができる。 エ 決められた時間、集中して取り組む。 オ 興味のある活動、趣味などを見つけて、余暇や休日を見守る。 | 小学段階で必要な力 ア 労働と報酬の関係を知る。 ア 製品を買ってもらった喜びを感じる。 イ 社会体験を通して、様々な職業に関心をもち、いろいろな進路があることを知る。 ウ きまりや指示を理解して行動し、分らないときは聞くことができる。 エ 決められた時間、集中して取り組む。 オ 興味のある活動、趣味などを見つけて、余暇や休日を見守る。 | 中学段階で必要な力 ア 周囲の人に相談したり依頼したりする。 ウ 継続して物事に取り組む。 ウ 自分がすべきことが分かる。 | 高等部段階で必要な力 ア 状況に合った解決手段（人、福祉機関）を知り、困った時に相談したり依頼したりする。 ウ 自分がすべきことを理解し、継続して取り組む。 ウ 自分の生活に見通しをもち、計画的に行動する。 | 本校の目指す児童生徒像 Ⅲ 課程の目指す姿 C 自立し社会に参加・貢献しようとする努力を続ける児童生徒 1 働く喜びや作業や活動に参加する楽しさを感じながら生活している。 2 夢や目標をもって、できることを生かして生活している。 |

I・II課程における【卒業後の目指す姿】と、その姿に近づくための【卒業後の進路・生活を見通した必要な力】一覧表

| 必要な力の項目 | 各段階 | 小学部段階で必要な力 | 中学部段階で必要な力 | 高等部段階で必要な力 |
|--|-----|--|---|--|
| ①健康に関すること・身体を動かすこと ア 心身の健康 | | ア 自分の体調の良し悪しと自分が他人に伝えることができる。 ア二食を食べることができる。 ア 精神的に安定して生活する。 ア 早期起床の習慣を身に付ける。 ア 支援を受け、処方された薬を正しく飲むことができる。 ア 支援を受けて通院（受診）ができる。 イ 自分で取り組める運動をする。 | ア 体調が悪くなった時の対応ができる。 ア 食事の栄養バランスを考えながら食べることができる。 ア 自分なりの睡眠のリズムを身に付ける。 ア 何かにつけ病院がわかる。 ア 気分や身体の状態を医師に伝えることができる。 ア 処方された薬を正しく飲むことができる。 イ 身体の状態に応じて、自分で取り組める運動をする。 | ア 栄養のバランスを考え、食生活を送っている。 ア 健康・安全管理が自分で行える。 ア 医療機器の利用ができる。 ア 受信の際、問診に具体的に答えることができる。 ア 薬の種類や効果に分かり、正しく服用できる。 |
| イ 必要な運動 | | ア 相手や場に応じた挨拶ができる。(低学年) ア 相手や立場に応じた挨拶、言葉遣い、態度を身に付ける。(高学年) イ 自分の気持ちや考えを伝えることができる。 ウ 他人と協力して学習や活動に取り組むことができる。(高学年) | ア 相手や場に応じた挨拶、言葉遣い、態度を身に付ける。 イ 自分の気持ちや考えを状況に応じて伝えることができる。 ウ 互いの立場を理解し、支え合って学習や活動に取り組む。 | ア 思いやりのある心豊かな児童生徒とができる。 B 思いやりの気持ちを尊重した言動ができ、様々な年代や立場の人たちと協力して生活することができる。 2 生きがいとなるものを見つけ、生活を楽しむことができる。 |
| ② 他者とのかかわり ア 状況に応じた挨拶、言葉遣い、態度 | | エ 他者の考えや気持ちを聞いて、他者の意思等を理解する。(高学年) エ 態度や表情から相手の気持ちを伝えることができる。(高学年) エ 異性との適切なかかわり方を理解する。 必要な支援を受け、快適な生活を送る。 自分でできる動作を増やす。 できることは自分でしようとする気持ちをもつ。 | ア 相手や場に応じた挨拶、言葉遣い、態度を身に付ける。 イ 自分の気持ちや考えを状況に応じて伝えることができる。 ウ 互いの立場を理解し、支え合って学習や活動に取り組む。 | 1 家族の一員、社会の一員として、自分の存在価値を見出し、喜びを感じながら生活している。 2 自分でできること、できないことを理解し、必要な支援を依頼して、自立した生活を送ることができている。 3 向上心を持ち、目標に向かって努力を続けている。 4 所属意識を持ち、社会のルールや自分の行動に責任をもって行動することができる。 |
| ③ 基本的な生活習慣 ア. 食事 イ. 排せつ ウ. 清潔 エ. 更衣 オ. 身の回りの整理 | | ア. 食事（準備、挨拶、食具の操作、食事のマナー、後片付けなど） イ. 排せつ（尿意・便意の意思表示、ドアの開閉、便器の使い、方（小便器・洋式便器）、紙を取って拭く、衣服の交換など） ウ. 清潔（手洗い、洗面、うがい、歯みがき、手・口を拭く、鼻を切る、髭剃り、爪を切る、衣服の調節など） エ 更衣（靴・衣服の選択・着脱、袖口・襟元・裾を整える、衣服のたたむ、身だしなみ、衣服の調節など） | ア 自分自身の履きやすさや履き心地、履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 イ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 ウ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 | 1 家族の一員、社会の一員として、自分の存在価値を見出し、喜びを感じながら生活している。 2 自分でできること、できないことを理解し、必要な支援を依頼して、自立した生活を送ることができている。 3 向上心を持ち、目標に向かって努力を続けている。 4 所属意識を持ち、社会のルールや自分の行動に責任をもって行動することができる。 |
| ④ 課題解決力 ア. 自己理解と受容 イ. 問題解決力 ウ. 挑戦する力、向上心 | | ア 自分自身の得意、不得意を知る。 イ 必要な支援を教師などに依頼することができる。 イ いろいろな解決手段（物、人、支援機器）を知って、使おうとすることができる。 ウ 未経験なことや苦手なことにも挑戦する。 ウ 与えられた目標に向かって挑戦する。(低学年) ウ 自分で目標を設定し、挑戦する。(高学年) | ア 自分自身の履きやすさや履き心地、履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 イ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 ウ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 | 1 家族の一員、社会の一員として、自分の存在価値を見出し、喜びを感じながら生活している。 2 自分でできること、できないことを理解し、必要な支援を依頼して、自立した生活を送ることができている。 3 向上心を持ち、目標に向かって努力を続けている。 4 所属意識を持ち、社会のルールや自分の行動に責任をもって行動することができる。 |
| ⑤ 基礎基本の定着、教科学習 ア. 学習習慣の確立 イ. 基礎的学力や技能の定着 | | ア 与えられた学習課題に最後まで取り組む。(低学年) ア 自分で学習課題を定め、計画的に学習できる。(高学年) イ 読み書き計算を生活の中で活用することができる。 イ 生活の中で活用できる技能を身に付けることができる。(洗濯、調理、掃除、パソコン等) | ア 自分自身の履きやすさや履き心地、履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 イ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 ウ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 | 1 家族の一員、社会の一員として、自分の存在価値を見出し、喜びを感じながら生活している。 2 自分でできること、できないことを理解し、必要な支援を依頼して、自立した生活を送ることができている。 3 向上心を持ち、目標に向かって努力を続けている。 4 所属意識を持ち、社会のルールや自分の行動に責任をもって行動することができる。 |
| ⑥ 進路 ア. 働くことの意味 イ. 職業理解・進路選択 ウ. 就労につながる態度 エ. 将来設計 オ. 生きがい（趣味） | | ア 家族の一員としての役割を担う。 イ 自己の将来に夢や希望を持ち、どのような働き方を知り、実行していく。 イ いろいろな仕事の内容を知り、働く人の努力や工夫を知る。 ウ 苦手なことにも取り組む。 ウ 時間を守る。 ウ 善悪の判断ができる。 | ア 自分自身の履きやすさや履き心地、履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 イ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 ウ 履きやすさや履き心地を調整し、履きやすさを保つ。 | 1 家族の一員、社会の一員として、自分の存在価値を見出し、喜びを感じながら生活している。 2 自分でできること、できないことを理解し、必要な支援を依頼して、自立した生活を送ることができている。 3 向上心を持ち、目標に向かって努力を続けている。 4 所属意識を持ち、社会のルールや自分の行動に責任をもって行動することができる。 |

| 本校の目指す児童生徒像 |
|--|
| I・II課程の目指す姿 |
| A 健康でたくましく、生きぬく児童生徒 1 自分の生活環境を把握し、障害を理解して心と体が健やかで安定した生活を送ることができる。 2 自分からすすんで身体を動かす活動に参加し、身体機能や体力を維持、向上して生活することができる。 3 社会の変化に対応できる強い心を持ち、たくましく生きぬく力を身に付けることができる。 |
| B 思いやりのある心豊かな児童生徒 1 お互いの気持ちを尊重した言動ができ、様々な年代や立場の人たちと協力して生活することができる。 2 生きがいとなるものを見つけ、生活を楽しむことができる。 |
| C 自立した社会に参加・貢献しようとする児童生徒 1 家族の一員、社会の一員として、自分の存在価値を見出し、喜びを感じながら生活している。 2 自分でできること、できないことを理解し、必要な支援を依頼して、自立した生活を送ることができている。 3 向上心を持ち、目標に向かって努力を続けている。 4 所属意識を持ち、社会のルールや自分の行動に責任をもって行動することができる。 |